

今月のトピックス

- やっぱ知るところから!.....《新春“若手”対談》
- 鹿角産っておいしいね♪.....《地産地消への取り組み》
- 冷たくされて甘くなるんです。.....《鹿角のヒト・モノ情報》
- 龍.....《室長のコラム》

新春号特別企画 鹿角“若手”対談

「鹿角」を「かつの」と読ませたい!!

～鹿角ブランドの未来を語る～

2012年新年号の発行にあたって、「新年らしく、かつ、より一層プラットホームの構築、強化につながるような企画を」と考え、鹿角の産業分野で活躍する“若手”による対談を企画しました。今回は農業、工業、商業、観光物産の4つの分野で活躍する30～40代の方々にお集まりいただき、互いの活動紹介を通して見える鹿角ブランドの未来等を語り合いました。

“熱くも穏やかな対談”をイメージして、古きよき時代の雰囲気が残る、閑善賑わい屋敷の囲炉裏を囲んでの対談。炭火を眺めながらの対談は2時間におよびました。今回の紙面には全てを掲載できませんが、市HP等で全容を、本紙面ではその概要をご紹介します。



囲炉裏が緊張を和らげました



かつの商工会 青年部長
松浦 直哉さん

松浦テント内張店勤務。青年部長は来年度までの2年が任期。活動の意義、魅力をブログで発信中。

商工会青年部の活動の魅力、楽しさ、面白さをいろんな人にもっと伝えたいです!



十和田八幡平観光物産協会
物産事業委員長
安保 大輔さん

(有)安保金太郎商店代表。今年度から物産事業委員長を務める。3つ星お米マイスターでもある。

お店でも物産展でも、「人」に会いたくて来たというお客様から教えていただく事が多いです。

積極的な人材育成を

-人材の観点から課題や取り組み等を教えてください。
-根本さん 生産者の方々に育ててもらっていると感じているので、若い職員にも積極的

に生産者とのコミュニケーションを大切にさせています。

-奥村さん 工業系は全ての工程で責任感が大事です。それは若い従業員にも早くからもたせる必要があります。

20年後の鹿角は

-20年後も今と同じように取り組みを続けていけるのか、不安はありませんか。

-松浦さん 今20代の部員が少ないので、厳しくなるだろうとは思っています。

-奥村さん 20代の従業員は減少傾向かもしれないけど、まだいる方かと。

-根本さん 見れば20代が全くいないわけじゃないから、皆さんの活動をもっと知り合えば一緒にできる事とか協力できる事もあるんじゃないかな。

鹿角を発信する拠点、モノを

-安保さんにおうかがいしますが、鹿角の観光・物産の現況、課題はどう捉えていらっしゃいますか。

-安保 私は物産事業委員長なので主に物産の話ですが、全国的に物産展では高い売り上げは望めないものになってきています。～中略～今や物産展で安定して売り上げを出すのは北海道と沖縄くらい。「美味しい」というイメージがありますから。同じように「鹿角と言えば○○」という発信できるモノと発信の出島(拠点)がほしいなと思うところです。

-まさに地域ブランドのお話です。
-根本さん 個々には「うちはコレです!」という商品、サービスがあるのは知ってるけども、「鹿角と言えば・・・」という感じにはなってないのかな。これまでもいろいろあったと思いますが...
-商工会ではくの里として売り出した事もありましたね。

-安保さん いろいろあり過ぎな感じですよ。そば、とわの里かつの...

-奥村さん 駅伝とスキーのまち

-松浦さん 百人一首の里も?

-鹿角はご存知のとおり素材が多いですよ。

-根本さん 個々でいろいろ作っていても、一体化したようなモノがあってもいいですよ。鹿角○○セット、のような。

-安保さん 特産品やブランドの成功例を見てもその生産者や携わる人等が「これでいくべ」「やるべ」って中心の誰かがいて始めた事が結果的にブランドになっている、というものが多いいと思います。～中略～誰かがやり始めた事を叩いたり潰したりするのではなく「がんばれ!」「やるなら手伝うよ!」と協力、応援して一緒に盛り立てたりとか、そういう地域でありたいと思いますよね。もう「やるな、やるな、酒飲んで寝るべ」は変えなきゃいけないのかな、と。



かつの農業協同組合
営農経済部
根本 隆嘉さん

桃・りんごの果樹担当を合計26年。積極的な生産者との対話、職場でもコミュニケーションを意識している。

いろんな取り組みがある程度一体化できれば浸透してブランドになってくるのでは。



ものづくりネットワークかつの
若手チームリーダー
奥村 豊さん

(株)青山精工生産部班長。工業系の若い世代の交流機会を創り、ものづくりの楽しさ、喜びを分かち合えれば、と思案中。

工業系はあまり知られていないので、例えば大々的な交流イベントとかやってつながりをつくりたいですね。

～終わりに～

「鹿角と言えば○○」

-今回の対談の感想と皆さんの「鹿角と言えば○○」、あったら教えてください。
-根本さん 知り合えるいい機会でした。やっぱり知らない活動とかありました。

-奥村さん 緊張して来たけど、こういう雰囲気できて良かった。また呼んでください。
-松浦さん こういう機会はやっぱ良いですね。また機会があればぜひ。

-安保さん お酒がほしくなりますね(笑)、また機会つくりますよ。

4人の「鹿角と言えば○○」の続きはHPで!!

対談の全容は ↓↓↓↓↓↓

鹿角市HP

<http://www.city.kazuno.akita.jp/>

産業・まちづくり/ブランドアップ から

MADE in 鹿角 モノ情報



鹿角産ほうれん草

毎日の食卓に欠かせない葉野菜のひとつ、ほうれん草。今では季節を問わず、いつでも購入できる野菜になっていますが、冬のほうれん草は甘みが増し、葉も茎も肉厚で、鍋等に入れて味わっている方も多いのではないのでしょうか。そのほうれん草、

鹿角でも冬に作られている事をご存知ですか。

冬の名脇役野菜「ほうれん草」にスポットを当て、通年でほうれん草を出荷されている生産者のお一人、菩提野俊道さんのハウスを訪ねました。

7年前から取り組まれているというほうれん草は、ハウス栽培が基本。ここではハウス内でもほぼマイナスの気温になるため、天然の寒締め状態で、甘みと栄養価が増したほうれん草が栽培されます。お話をうかがうと、むしろ葉の凍結を避けるため収穫のタイミングに苦慮することもあるそうです。

この時期によく耳にする「寒締めほうれん草」とは収穫前にわざと冷気にさらして甘みや栄養価を上げる栽培方法をいいますが、ここではハウス内でもほぼマイナスの気温になるため、天然の寒締め状態で、甘みと栄養価が増したほうれん草が栽培されます。お話をうかがうと、むしろ葉の凍結を避けるため収穫のタイミングに苦慮することもあるそうです。

毎年品種改良等により新しい品種が出るというほうれん草ですが、この冬注目して味わってみてはいかがでしょうか。鹿角産の甘みと旨みあるほうれん草が今夜の食卓に登場しているかもしれません。

鹿角産っておいしいね♪ 市内学校給食“地産地消”への取り組み

鹿角の学校給食には3つのポイントがあるのをご存知でしょうか。

- ① 季節が感じられるものを取り入れる
- ② よく噛むものを取り入れる
- ③ 出来る限り鹿角産、秋田県産の食材を取り入れる



昨年12月19日に十和田小学校で行われた6年生2クラスの「バイキング給食」の冒頭、栄養士の丸岡先生が児童に説明したものです。また、同時に地産地消のメリットについても学ぶ熱心な児童の姿に、明るく未来への期待を感じましたが、この日の注目食材で紹介されたのが「鹿角産米粉を使用したマラーカオ」。

給食にも食材提供している箒畑加工グループ（代表成田勝子さん）が昨年初めて開発した中華風蒸しケーキ「マラーカオ」は、今回鹿角産あきたこまちの米粉を原料に、北限の桃コンポートを乗せ、子どもの給食用に調整された大きさ、味でバイキング給食に登場しました。

今回はバイキングという事で“選ぶ楽しさ”“周囲への配慮”等の習得を考慮し、クラス全員分のマラーカオは用意されませんでした。選んで食べる児童からは「はじめての味!」といった驚きの表情も見られ、終了後の感想発表でも「はじめて食べたけど美味しかった」等という声がかれました。

こうした給食メニューへの鹿角産デザート等の提供は、これまでもアップルパイが提供される等の取り組みがあり、今後も活発に進められます。今後も子どもたちが「鹿角で取れる、つくるものは美味しいね!」「やっぱり鹿角産だよね!」と言い合えるような地道な取り組みと、それを育む地域全体の高い意識が求められます。



【鹿角ブランドアップ戦略レポート】

コミュニティFM プロジェクト

年明け1月6日から毎週金曜日の会議を再開し、2月15日の講演会（詳細は下記参照）に向けた準備と免許申請に向けた書類作成が本格化しました。また、来年度に向けて運営会社の設立に向けた下準備も始まります。コミュニティFMが鹿角地域に生み出すプラスの効果とは？その答えは下記に掲載した講演会で！入場は無料です。ぜひ皆様でご参加ください！

桃 花 プロジェクト

前回のワークショップでは、ブレインストーミングによるアイデア出しとそのまとめを行いました。メンバーからはすばらしいアイデアがたくさん出されましたので、今年はそれらをさらに掘り下げていくワークショップを展開していきます。①生食ブランドと加工転用 ②桃を通じた体験提供（観光含む） ③関連イベントの推進 ④桃キャラクター考案 など、どなたでも参加できますので、興味をお持ちの方は是非ご一報下さい。

米 粉 プロジェクト

プロジェクトの一層の充実を図り、鹿角地域が一体となった取り組みに繋げるためのきかけ作りとして、米粉・米加工事業者と生産者・関係機関等が連携したブランドアップ事業の実施を計画しています。



桃花ワークショップの様子

コミュニティFM放送を知ろう!!

～花輪地域づくり協議会&鹿角コミュニティFM開局準備チーム共同開催～
鹿角にコミュニティFMが開局するってよ! ya! ya! ya!

コミュニティFMの開局は鹿角ブランドアップ戦略で提案されたプロジェクトの一つですが、かねてよりインターネットラジオで鹿角の情報発信を行っている花輪地域づくり協議会と連携協力し、このたびコミュニティFMの魅力と楽しさ、効果等を多くの人に知ってもらう公開講座が開催されます。鹿角地域の内需拡大にも、ブランドアップ推進におけるプラットフォームの基盤ともなるコミュニティFM。この機会にぜひその活用方法を知ってみませんか？

と き 2月15日(水) 18:30～20:30

と ころ 花輪市民センター ホール

内容: ○コミュニティFMラジオとは?その魅力は?
○パーソナリティのお仕事
○鹿角のコミュニティFM開局への取り組み等

講師(パーソナリティ):カシオペアFM(二戸市)
えふえむ花巻(花巻市) 落合昭彦氏

☆問い合わせ:花輪市民センター 電話0186-23-3351

入場
無料

400字のつぶやき

～コラム～

皆様あけましておめでとうございます。昨年は本当に怒濤の一年だった。そして、今まで我が物顔で地球を占領してきたところに、実のところの人間の小ささを思い知らされた。

さて、今年は「龍」の年である。龍と言えば鹿角(十和田湖)由来の八郎太郎伝説がある。ストーリーはここでは割愛してもらおうが、この伝説の元となったのは、約千年前に起こった十和田湖の噴火である。この噴火は世界的に見ても大きな噴火の一つとも

言われているぐらいで、当時の被害も相当なものであったろう。実際、東北地区の発掘現場では当時の火山灰や火砕流により埋もれた家屋がたくさん見つかっている。思えば、鹿角の伝説は千年前を起源としたものが多いような気がする。

当時のヒトから見れば、後にこの噴火を語り継ぐ中で、この火山灰などが龍に見立てられていったのであろう。きっと昨年の震災もこのような形で後世に受け継がれていく日がくるのかもしれない。

これまでは、ヒト、モノに関わるブランド化に焦点をあててきたが、生粋の鹿角の伝説もたくさんある。これらも絡めながらの展開もいいかもしれない。今年は「龍＝八郎太郎」。「さあ、お上りさん状態でいぞお」(ブレードリ)

【発行元】

発行 鹿角市産業連携推進室

電話 0186-30-0264

FAX 0186-30-1515

メール renk@city.kazuno.lg.jp

Twitter@KazunoRenk

Facebookページ 鹿角の【ヒト・モノ・ワザ】

